

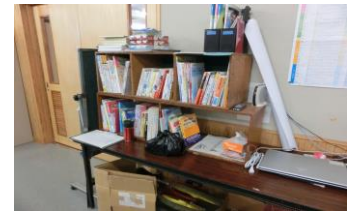
平成25年1月、静岡県伊東市での「学びの共同体」冬季セミナーで宮古島市立北小の平良校長との出会いのきっかけがあった。北小でも「学びの共同体」の理念による学校経営、授業経営を進めているが、ぜひ一度本校の訪問と「学び」についての講話をお願いしたいと依頼を受けていた。年度末から北小のT先生（教務主任）と日程を調整し訪問がかなった。

人柄。「温厚な人柄」とは、まさに平良校長先生を言葉にしたような様ではないかと感心した。辞書によると「穏やかで優しくまじめなさま、情け深いさま。」「人当たりが柔らかく誠実なさま。」とあるが、私が何より感心したのは2日間の同行の間の校長先生の「顔」である。お世辞にも「美男」であるとは表現しにくい、何とも優しい面持ちの「顔」である。この「顔」なら何でも聴いてくれる、この「顔」なら何でも話せる、この「顔」ならきっと分かってくれる。人を安心させるその「顔」からは常に優しい眼差しが注がれていた。私も「安心」して北小の学校訪問を進めることができました。感謝です。

前書きが長くなってしまいました。以下訪問記録です。



写真①



職員室の一角に「学び」関係の本が準備されている。実践を裏付ける理念を、ぜひ全職員で共有してほしい。

中廊下の広さにびっくり110mあるとか？職員室（写真①）には会議用のテーブルだけが配置されているが、二階、三階には、先生方の教材研究や学年会用の小会議室がある。校長室の廊下側の窓は大きなガラス張りになっていて、「オープン化」に心がけられた充実した施設である。

深い思考や、深い学び合いは整然とした学習環境でしか生まれえない。学校（校舎）、教室に子ども達が「安心」して通い、仲間と支え合う環境を準備するのは大切であり、みんなで取り組む義務である。



写真②

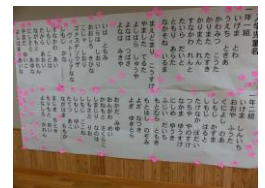
北小の校庭にゴミが見あたらない。玄関を入ると子ども達の忘れ物だろうか？きれいに整理されて保管されている（写真②）。忘れ物だからと言って雑に扱われていないところが「すてき」である。

学校が、先生が、「家の子ども」をどう見ているか（扱っているか？）保護者の気にかけていることは何だろう。保護者は子どもが安心して通える学校をどうイメージしているだろう。学校のどんな取り組みが保護者を安心させることができるだろうか？「学びの共同体」の理念とビジョンの共通理解を深めてほしい。



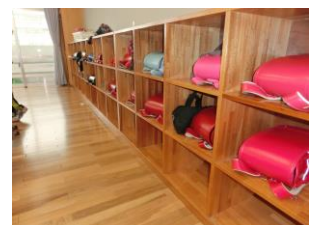
玄関は学校の顔である。靴箱は一番最初に訪問者の目につく、私も思わず足を止めカメラのシャッターを開く。「美しい」の一言である。

「入学おめでとう」だけでなく入学の子どもたち一人ひとりの名前が掲示されていた。みんなの中の「ぼくはぼく。」「わたしはわたし。」であることを大切にしたい。



【教室のロッカーや掲示物】

どの教室を見ても、ロッカーがきれいに整理されている。当たり前かもしれないが、常に「気にかけて」いたい。単純な話、ぐずれた教室ではこうはいかない。ロッカーの中は雑に用具や道具が放り込まれ、子どもの作品や展示物は壊されたり、いじられたりである。落ち着きのあるしっとりした教室経営をめざしたい。



【4年 少人数算数指導】 年度当初で今回はT・T形態である。



【「ケア」する】

「学び」の授業において机間巡視や個別指導という言葉はない。あくまで仲間との「学び合い」に参加できない子どもを、仲間になく行為を「ケア」としている。仲間は仲間で支え合うが原則である。

教師の話に聞き入る子ども達。この教室の子ども達は何かを「語りたがっている。」そんな空気を感じた。教師の言葉もやわらかく、子ども達の反応もいい。テキストからの気づきを「話したがっている。」教師の言葉に、「何かを話したがつている。」子ども達の思いをどう「学び合い」につなぐか？
じつは「教師の心がけ」一つである。→「きく・つなぐ・もどす」

【不安も情報の一つである】

低学年の教室風景である。教室の全形態をコの字に配置している。教師の側の年度当初の不安や、「学び合い」の授業にまだ不安や疑念があるのだろう。教師互いの不安や疑念も互いの情報として共有し同僚性の構築に心がけてほしい。大切なことは不安があるからとどまるのではなく、不安も共有し教師互いが高め合うことを目指す姿勢が大切である。



なぜコの字か？なぜ小グループか？「対話」とは？「学び」とは？「聴く・つなぐ・もどす」とは？北小の校内研修等でぜひ共通理解を図り、職員の不安や疑念の解消を図ってもらいたい。

【6年1組 授業風景】 算数ドリル学習



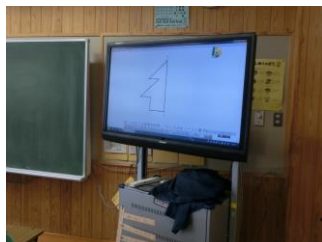
写真③

すべての授業が「対話と共同」ではなく、時には徹底したドリル学習や訓練的指導もありであるが、子ども達が支え合いたい意志は大切にしたい。せめて「分からないときは訊く」という行為は認めてあげたい。



残念ながら、全国学テに向けたドリルの学習の時間だった。確かにいい点数を取らせて生まれる安心もある。写真③、休み時間だろうか？教師が二人の女の子を相手に一生懸命説明している。日常の関わり大切さである。教師の話聞きそこに「安心」が生まれる。さらに信頼というお土産を残す。この子たちが知った事実よりも、その行為によって芽生える「信頼」こそ、支え合う学級の基礎になる。

【6年2組 算数 線対称】



写真④



写真⑤

この教室では、子ども達が何の違和感もなく「学び合っている」すごく自然な営みである。線対称の特徴や書き方を皆で解決しようと頑張っている。取り残されている子どもが見あたらない！写真④、分かっている子が分からない子に教える「教え合い」ではなく、「分からない」ことを互いに訊き合う「学び合い」である。「教える側」と「教えられる側」という壁をつくらない、互いに分からないことを訊き合うが原則である。写真⑤課題が難しいからやりがいがある。つまり夢中にさせてくれる。一人で簡単に解決できるのであれば「学び合い」の質は高まらない。「子ども達が互いに訊き合う（聴き合う）。支え合う」教室の風景である。

【 仲間の眼差し 】



写真⑥、仲間の発表を見つめる眼差しである。「聴き合う」のできている学級ではすべての仲間の視線が注がれる。「聴いてあげなくては」仲間の無言の音が聞こえる。

写真⑦、教室は職員室の鏡、子どもは教師の鏡である。分かりやすい！教師の笑顔が教室の仲間を笑顔にする。

安心しきっている子どもの笑顔が宝である。

【 教師の鏡 】



この6年2組の教室を見て喜ばない保護者はいないだろう。難しい問題が解けて、良い点数が取れるだけでは「人柄」が問われない。難しい問題が解けなくても、教室の仲間と何とか分かろうと協力し、訊かれたら「寄り添って一緒に考えてくれ」「支える・支えられる」が何の違和感もなく共有されている。この教室での家の子を見たとき、家の子がどの立場に居たとしても保護者は「安心」できるのではないだろうか。

教室における「聴き合う」関係を築くためには、まず教師の側からその姿勢を示し、「何でも話していいのよ、何でも聞いてあげる。」という空気を作り出すことからはじめ、授業だけではなく日常からの関わりを大切にしたい。不思議なことに「教師の聴く姿勢」は確実に教室の「仲間の話の聴き方」に映し出される。

【 日常の関わり「聴いてあげる」…だけでいい！ 】 3枚の写真



どこの学校でも休み時間によくある風景である。教師の周りに子ども達が集い「なんか話している。」うれしい。何か話したいから来るのです。先生が聴いてくれるから来るのです。時には先生の「お手伝い」させてと、せがむ時もあるのではないのでしょうか。大好きな先生に聴いてほしいの。先生の役に立ちたいの。

教師がただうなずきながら、淡々と聴くだけでも子どもは「安心」するものです。子ども達の日常の行為や言葉には、必ず心がかかっていることを分かってあげる教師になりたい。

教師に依存されたときの子どものうれしい顔を思い出してほしい。「教師も、子どもも互いに依存する。」

【 5年1組 図工 めあて：自分の顔の感触を確かめながら絵を描こう。 】



絵の上手な子もいれば、それなりの子、苦手な子もいて当たり前である。この教室はすべての仲間の思いが認められている。写真は作品を描き終えた後の品評会である。実に楽しそうに語っている。上手な人を取り立ててほめている会話はあったが、そうでもない絵に文句を言っている子は一人もなかった。(私が聞く限り)

自分の顔をカッコよく描きすぎて、釘を刺される子はいたが互いに笑顔で語っていたので何ら問題はない。会話の中にはちゃんと互いが学びとなるアドバイスがあった。批評を互いに預けた教師が学びをつくったのである。



【5年1組 国語 詩を味わう 「丘の上の学校で」】



「書き込み」気づき、疑問？思いがそれぞれ書き込まれる。書き込みながらも仲間との「対話」から「なぜ?」「なるほど」の学びが交わされる。全く違和感なく楽しそうにである。写真⑧、書き込みの後の全体での共有であるこれも素晴らしい、仲間の聴き合う姿を見てほしい。新学年まだ1週間である事実に驚かされる。授業の研究は教師個人や職員室の冊子に残るが、「学び」の研究は教室の子ども達に引き継がれる。・・・まさにである。前年度の担任に感謝！



一人が辞書をひき、身を乗り出して読み合っている。これも夢中になると身をのりだす風景かもしれない。この教室で身を乗り出す子どもの姿は何度もあった。

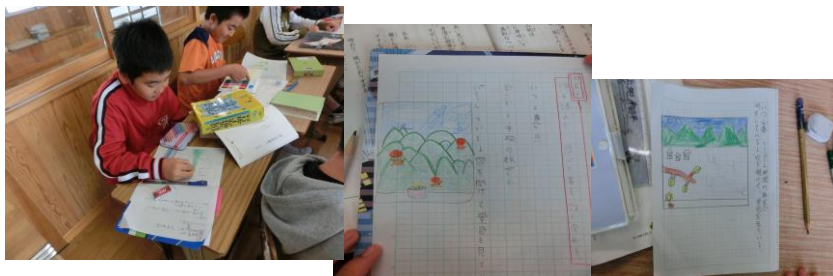


教室の仲間の発表を見つめる眼差しである。素晴らしいの一言！仲間がちゃんと聴いてくれるから発表できる。たどたどしくても聴いてくれる。だから何でも語れる。私の話も大切にされている。



「ケア」である。この状況で一番つらいことは無視されることである。絶対に教師がひいてはいけない場面でもある。教師の笑顔と差し出された右手の思いは必ず届くようになる。

【ジャンプの課題】 詩のイメージを絵に表現しよう。
 ・教師：「上手、下手は関係ないから、自分が思った通り思いきり描いて。」教師のこの言葉が子どもの表現を大胆に活発にする。皆、思い思いにのびのび自分のイメージを絵にする。楽しそうである。正しいも、間違いもない、最高のジャンプ課題だ。各教科によって「学び」の在り方や、ジャンプの在り方は様々で定式化できない。今日の学習は、詩を味わい、仲間との「対話」によってさらに自己の中に新しい知識や感覚が内化され、自己の昇華が約束される。



授業終末、一人の女の子の発表があった。単なる絵の発表ではない。私にしかない私の考えをみんなと共有した。みんなちがうから共有の価値が生まれる。もしみんなが同じような絵をかき、同じ感想を持っていたら。…恐ろしい気がする。

北小学校の先生方ほんとお世話になりました。いつも思うことですが、いつでもどこに行っても私にとって「学び」のない学校訪問、授業視察はありません。今回5年1組のH先生の授業に張り付けてもらいましたが、新年度始まってまだ1週間に驚きと同時に、「学び」の研究が子どもたちによって引き継がれるという貴重な事実を見せていただきました。前年度担任なされたN先生、N先生の5年1組の子ども達の話をお聴きしている時の、しっとりした姿が目につかれました。北小学校の今年1年の頑張り、遠くからですが応援します。

・聴き合う関係づくり・机の高さを揃える・テンションを下げる・多くを語らない・いろいろあります。「静かに、ゆっくり、淡々と」北小の先生方が進みゆけばと思います。焦りは禁物！「活発ですごい授業」より「しっとり素敵な安心できる授業」を目指してください。校長先生、K先生、2日間お世話になりました。感謝につきます。